



The Grass-roots Movement of Art Nouveau:
Literary Magazines and Design Education in the Meiji Era



草の根のアール・ヌーヴォー

明治期の文芸雑誌と図案教育

2019年10月28日(月)～11月22日(金)

京都工芸繊維大学美術工芸資料館 1階

開館時間：10:00～17:00(入館は16:30まで)

休館日：日曜・祝日

入館料：一般200円／大学生150円／高校生以下無料

* 京都・大学ミュージアム連携所属大学の学生・院生は学生証の提示により無料で入場できます。

主催：京都工芸繊維大学美術工芸資料館／国際日本文化研究センター・機関拠点型基幹研究プロジェクト「大衆文化の通時的・国際的研究による新しい日本像の創出」

後援：みんなのミュージア京都展実行委員会 協力：ミュシャ財団  河瀬満織物株式会社

19世紀末から20世紀初頭にかけてヨーロッパを席卷したデザイン様式・運動であるアール・ヌーヴォー。その特徴的な表現の一つに、アルフォンス・ミュシャ(1860-1939)が手がけた、渦巻くような曲線による植物模様や女性像があります。アール・ヌーヴォーの流行は、浅井忠(1856-1907)や藤島武二(1867-1943)といったパリ帰りの美術家たちが持ち帰った印刷物などを通じて、明治期の日本にも伝わりました。日本のアール・ヌーヴォー受容の顕著な例として、京都高等工藝学校(1902(明治35)年創立)において浅井忠らが担った図案(デザイン)教育、雑誌『明星』(1900(明治33)年創刊)をはじめとする文芸雑誌の表紙絵や挿絵があげられます。図案教育を受けた学生たちの作例や文芸雑誌の挿絵類は、当時勃興しつつあった複製文化である印刷物と密接な関わりをもった点、著名な美術家ばかりでなく、無名の図案家や挿絵画家たちが、洋風生活を意識したデザインや投稿欄をもつ文芸雑誌を彩った点において、日本のアール・ヌーヴォーが草の根に広がっていたことを示しています。

この展覧会では、図案教育と文芸雑誌の挿絵を中心とした資料(複製資料を含む)およそ150点を紹介します。また、幻の挿絵画家・一条成美(1877-1910)の作品も多数ご紹介します。独学で絵を学んだ一条成美は、『明星』『新聲』の表紙絵・挿絵により一躍人気を得ましたが、早世の後には謎に包まれた生涯とともに忘れ去られる傾向にありました。これらの作品資料を通して、無名の人々が織り成した日本のアール・ヌーヴォーの行方を感じ取っていただければと思います。

また、関連展示として、河瀬満織物株式会社のミュシャに着想を得た西陣織作品による、現代京都の着物産業におけるアール・ヌーヴォー受容の一例をご紹介します。

なお、この展覧会は、京都工芸繊維大学美術工芸資料館と国際日本文化研究センター・機関拠点型基幹研究プロジェクト「大衆文化の通時的・国際的研究による新しい日本像の創出」の連携により開催されるものです。



1. アルフォンス・ミュシャ《クリオ》1900、国際日本文化研究センター蔵
 2. アルフォンス・ミュシャ《装飾資料集》1902
京都工芸繊維大学美術工芸資料館蔵(一部画像提供：ミュシャ財団 ©Mucha Trust 2019)
 3. 桑原義顕《図案模写》1911(明治44)受入、京都工芸繊維大学美術工芸資料館蔵
 4. 土岐純一《和洋文具雑貨土岐商店》1914(大正3)受入、京都工芸繊維大学美術工芸資料館蔵
 5. 『文章世界』第2巻第10号(表紙：橋本邦助)、博文館、1907(明治40)、大塚英志氏蔵
 6. 『ハガキ文学』第2巻第4号(表紙：和田英作)、日本書学会、1905(明治38)、大塚英志氏蔵
 7. 与謝野鉄幹『鉄幹子』(挿画：一条成美)、1901(明治34)、大塚英志氏蔵
 8. 『新聲』第7編第1号(表紙：一条成美)、新聲社、1902(明治35)、大塚英志氏蔵
- 表面：上記キャプションのうち、1, 4, 8

イベント

2019年11月9日(土)13時～16時

○講演会「ミュシャ様式とアール・ヌーヴォー再考」

講師：佐藤智子氏(ミュシャ財団キュレーター、「みんなのミュシャ」
[於：京都文化博物館]監修)

○ミニレクチャー「日本ミュシャ事始め—白馬会の場合」

講師：三谷理華(静岡県立美術館学芸課長)

○ギャラリートーク

前川志織(国際日本文化研究センター特任助教)

会場：京都工芸繊維大学美術工芸資料館

主催：京都工芸繊維大学美術工芸資料館、国際日本文化研究センター・機関拠点型基幹研究プロジェクト「大衆文化の通時的・国際的研究による新しい日本像の創出」、ジャポニスム学会

同時開催

○博物館資料実習展「ポスターと写真・日本」

会期：2019年11月18日(月)～12月14日(土)

関連展覧会

○「みんなのミュシャ ミュシャからマンガへ—線の魔術」

主催：京都府、京都文化博物館、ミュシャ財団、読売テレビ、ローソンエンタテインメント

会期：2019年10月12日(土)～2020年1月13日(月・祝)

会場：京都文化博物館

交通

○市営地下鉄烏丸線「松ヶ崎駅」下車1番出口から徒歩約8分

○京都バス「高野泉町」下車徒歩約10分

By Subways: Take the “Kokusai Kaikan” bound Karasuma Line Subway to “Matsugasaki” Station, and walk east for 8 minutes.



お問い合わせ

京都工芸繊維大学美術工芸資料館

〒606-8585 京都市左京区松ヶ崎橋上町

TEL 075-724-7924 <http://www.museum.kit.ac.jp/>

Museum and Archives, Kyoto Institute of Technology

Hashigami-cho Matsugasaki Sakyo-ku Kyoto-shi Kyoto 6068585, Japan

国際日本文化研究センター プロジェクト推進室

〒610-1192 京都市西京区御陵大枝山町3-2

<http://taishu-bunka2.rspace.nichibun.ac.jp>

International Research Center for Japanese Studies

3-2 Goryo Oeyama-cho, Nishikyū-ku, Kyoto 610-1192, Japan